

令和8年1月13日

各 位

〒047-0007 北海道小樽市港町7-2  
株式会社北日本消毒  
代表取締役 湊 亨  
お問い合わせ先 DX推進部  
電話：0134-29-3143

## デジタルトランスフォーメーション戦略の改定に関するお知らせ

弊社、株式会社北日本消毒はデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」）戦略を改定いたしましたので、お知らせいたします。

### 1. 経営戦略

- 経営ビジョンとビジネスモデル:
  - ビジョン: 「属人化した技術」から「形式化による標準化」への脱却。ベテラン社員の経験と勘に依存していた害虫防除・衛生管理のノウハウをAIで民主化し、経験の浅い社員でも高品質なサービスを提供できる「テクノロジー武装型・衛生コンサルティング企業」を目指します。
  - ビジネスマネジメントの変革: 労働集約的な駆除作業に加え、AIが過去の膨大な事例データに基づき、害虫発生リスクや最適な対策を科学的に提示する「予知・予防型コンサルティング」という高付加価値モデルへシフトします。
- (DX認定対応項目): 企業経営の方向性、価値創造の仕組み

### 2. DX戦略

- 戦略の概要:
  - 社内の技術マニュアル、過去数十年分の施工報告書、薬剤データ、法規制情報などを統合した「社内ナレッジベース」を構築し、生成AIを用いたRAG(Retrieval-Augmented Generation)システムを導入します。これにより、現場での即時課題解決と、事務作業の自動化を実現します。
- 具体的なアクションプラン:
  - 独自ナレッジベースの構築: 紙ベースや散在するデジタルデータを集約し、AIが読み解可能な形式(ベクトルデータ等)へ構造化・整備します。

- **現場用 AI アシスタントの導入:** 全現場社員にタブレットを支給し、チャット形式で「この害虫の特徴と対策は?」「過去の類似事例は?」と問い合わせるだけで、社内規定や過去の実績に基づいた回答が即座に得られるアプリを展開します。
- **報告書・提案書の自動生成:** 現場で入力した箇条書きの状況メモから、RAG システムが過去の優良事例を参照し、顧客向けの高品質な報告書や改善提案書を自動ドラフト作成する仕組みを構築します。
- **顧客対応の高度化:** カスタマーサポートにおいても RAG を活用し、顧客からの問い合わせに対して、過去の対応履歴や技術資料に基づいた正確で迅速な回答を可能にします。
- (DX 認定対応項目): 経営戦略・ビジョンの実現に向けた方策

### 3. DX 推進のための環境整備

- **IT システム・デジタル技術活用環境の整備:**
  - **生成 AI 基盤の導入:** セキュリティが担保された生成 AI 環境(Azure OpenAI Service や Amazon Bedrock 等)と、社内データを検索するための検索サービスを構築します。
  - **データ構造化の推進:** 過去の手書き報告書を OCR(光学文字認識)でデジタル化し、検索可能な資産としてデータベースへ格納するプロセスを確立します。
- **人材育成・確保の計画:**
  - **AI 活用リテラシー研修:** 全社員に対し、生成 AI に対する正しい問い合わせ方(プロンプトエンジニアリング)や、AI の回答の真偽を確認する(ハルシネーション対策)ための研修を実施します。
  - **データスチュワードの育成:** 各部門において、AI に学習させるデータの品質管理や更新を担う人材を育成・配置します。
- (DX 認定対応項目): DX 推進のための体制・組織、人材、企業文化に関する方策

### 4. DX 戦略 達成度を測る指標

- **主要業績評価指標 (KPI):**
  - **現場での問題解決時間:** 現場スタッフが不明点を確認するために要する時間(電話確認や資料検索時間)の削減率(目標:50%削減)。
  - **新人戦力化期間:** 新入社員が独り立ちして現場を担当できるまでに要する研修期間の短縮(目標:30%短縮)。
  - **報告書作成時間:** 帰社後の事務作業時間の削減(目標:月間20時間の削減)。
  - **RAG システム利用率:** 現場およびバックオフィスにおける AI アシスタントへのクエリ数(活用定着度の測定)。
- (DX 認定対応項目): 戦略の達成度を測る指標

## 5. DX 戦略の推進体制

- **推進体制の全体像:**
  - 代表取締役をトップとする「AI トランسفォーメーション委員会」を設置。その下に、システムの技術的な実装を行う「開発チーム」と、データの整備・品質管理を行う「ナレッジ管理チーム」を配置します。
- **経営トップのコミットメント:**
  - 社長自らが「AIと共に働く新しい企業文化」を提唱し、AI 活用による業務効率化を人事評価へ反映させる制度設計や、セキュリティポリシーの策定に責任を持ちます。また、AI 導入に必要なクラウドコスト等の投資判断を迅速に行います。
- **(DX 認定対応項目):** 経営者のコミットメント、DX 推進のための体制

## 6. DX 推進チーム

- **チームの役割と責任:**
  - RAG システムの精度向上: 現場からのフィードバック（「この回答は役に立たなかった」等）を分析し、参照データの追加や検索ロジックの調整を行う責任を負います。
  - 社内データの整備: AI が正しい回答を導き出せるよう、マニュアルや規定類の最新化・整理整頓（データクレンジング）を主導します。
- **構成メンバーとスキルセット:**
  - プロジェクトオーナー: 現場業務と経営課題の両方を理解する経営幹部。
  - ナレッジマネージャー: ベテラン社員（技術指導員クラス）。AI に学習させるべき「正しい知識」を選定・監修する役割。
  - AI/IT エンジニア（外部パートナー含む）: RAG のアーキテクチャ構築、プロンプト調整、API 連携などを担当する技術者。
- **(DX 認定対応項目):** DX 推進のための体制に関する具体的な記述

地元である後志・小樽地域における DX 推進のモデル企業となれるよう今後も粉骨碎身の思いで取り組んでまいります。

以上です。

令和 8 年 1 月 13 日改訂